横井　美帆乃

私は死刑制度に反対である。

現在、死刑の手段としては絞首刑が用いられており残虐ではないとされている。しかし、死刑執行後三十分ほど死刑囚を吊るしたままの状態にしておくことは、火あぶりやはりつけ、さらし首と同程度の残虐性があり、人道的な面からも問題である。また、執行を当日の朝知らせることは、死刑囚の精神にとって残酷だと言えるだろう。

次に、死刑制度が凶悪な犯罪の発生を抑止しているという意見が想定されるが、それに対して肯定的なデータと否定的なデータが混在しており証明することはできない。むしろ、死刑になりたいと事件を起こす者もいる。また、加害者に対して死刑が適用されることを望まない被害者遺族もいる。そのため、死刑制度が被害者遺族の報復感情を満たすための適した方法であるとは言いにくい。

しかし、単に死刑制度を廃止するだけでは十分ではない。懲役刑や無期刑は加害者が出所する可能性があり、社会的に不安が強まる。よって、死刑制度のかわりに無期刑と違い仮釈放のない絶対的終身刑を導入するべきである。